

やさしい日本語によるニュースの書き換え実験

田中英輝[†] 美野秀弥[†]

国内の日本語非母語話者の数は年々増加しており、その中のかかりの人が日本語能力の不足を感じている。一方、多くの人々はテレビやラジオのニュースを通じて様々な情報を得たいと希望している。これに対して著者らは、ニュースをやさしく書き換えて外国人向けに放送する際の問題の検討を始めた。これには、やさしい日本語の基準を始め、いろいろな条件を定める必要がある。この検討のため、災害ニュースを暫定的な基準を使ってやさしく書き換え、その観察から条件を考察した。その結果、やさしい日本語の基準として次を得た。文法は日本語能力試験3級以下の初級レベル。語彙は、ニュースに必要な基本語彙、おそらく数千語を定めてその範囲とする。このような基準で情報を提供した場合、初級終了から2級準備レベルの学習者であれば理解可能との感触を得た。さらに、語彙理解の困難を軽減するため、辞書を提供することが望まれる。辞書付きで情報を提供するには、デジタルテレビやインターネットの文字による放送が適しており、これらを使った放送がやさしい日本語ニュースをもっとも実現しやすいと考える。

Manual Translation Experiment of Broadcast News in Simple Japanese

Hideki Tanaka[†] and Hideya Mino[†]

The number of non-native Japanese speakers increases year by year and many of them suffer from lack of competence in Japanese. These people strongly hope to be able to get information through TV and radio programs as the native Japanese speakers. Following such demands, we decided to study the possibility of translating Japanese news into simple news and broadcast it to these people. To estimate an appropriate level for simple Japanese news, we conducted manual translation experiments and found that the news is able to be translated with several thousand words with the elementary level grammar. We found that the translated news that observes above restrictions can be expected to be understood by the Japanese learners who have finished the elementary course and proceeded a little bit further. Since the learners of this level cannot be expected to fully understand several thousand words, we consider it important to offer a dictionary for news to them. We consider that character-based media such as internet or digital TV will be most suitable for the service of simple Japanese news with dictionary.

1. はじめに

法務省の統計によれば日本の外国人登録者数は年々増加傾向にあり、2009年末には218万人、全人口の1.7%を占めるに至っている1)。これらの人々のかかりの数が、日本語能力が不十分なことによる、何らかの不便、不利益を感じている。実際、全国規模のアンケート調査報告2)によると、71.6%の外国人aがこのように感じていることを報告している。

この不便、不利益の状況が顕在化するのが阪神・淡路大震災や新潟県中越地震などの大災害時である3)。新潟県中越地震の後に行われた外国人への聞き取り調査4)によれば、余震、避難場所などの命に関わる情報が、通常のニュースで十分伝わっていない実態が明らかになっている。また、当然、多くの外国人が母語での情報伝達を希望している(文献4)の調査では52%)。

この希望に添うべく、いろいろな機関で多言語による情報発信の努力が行われているが3)、母語の数が多すぎて、完全な実現は困難である。

一方、外国人の日本語能力に合わせて、やさしくした日本語で情報を伝えることが試みられている。緊急時に必要最小限の情報をやさしい日本語で伝えようという研究5)がその例である。文献5)は地震発生から72時間以内に伝えられたニュースを分類し、これらの情報を提供するための「やさしい日本語」(Easy Japanese, 以下EJと略記する)を提案している。ここでは日本語能力試験出題基準6)の3, 4級レベルの語彙(1,600語程度)と若干の拡張、および同レベルの文法を使うことを提案している。これは日本語学習時間300時間の初級レベルに相当する。また、災害発生時の情報伝達が主目的であることからラジオの音声で伝えること、ポスターなどの掲示物を作成することを特徴としている7)。

もう一つの試みとして、日本での生活に不可欠な自治体のお知らせなど、いわゆる公文書をやさしい日本語で提供する研究が行われている(「日々ほんやくこんにやくプロジェクト」, 以下HKと略記する)8)。HKのやさしい日本語は、文法を初級以下に制限し9)、語彙は読み手に辞書を提供することを前提に10,000語程度まで許すことを特徴としている8)。

以上のような切実な分野でのやさしい日本語による情報提供の重要性は論を待たない。著者らは、これに加えてニュース全分野を対象に、これをやさしくして外国人に提供できる可能性の検討を開始した。先のアンケート調査2)でも外国人が実現したい項目の上位に「テレビやラジオでニュースを見聞きする」が上がり、日本語母語話者

[†] NHK 放送技術研究所
Science and Technology Research Laboratories of NHK

a 本稿では文献2)にならない、日本語を母語としない人々を便宜的に外国人と呼ぶ。

と同じニュースを毎日同じように見聞きしたいという希望は大きいと考えるb。
このような放送を始めるには、さまざまな条件を決めなくてはならない。

- メディア
 1. どのメディア（ラジオ、テレビ、インターネット）で放送するか
- やさしい日本語の基準
 1. 自然性を損なわず、かつ内容をできるだけ削減せず、ニュースをどこまでやさしくすることができるか
 2. どの日本語レベルの外国人に理解可能か
- 書き換えの支援
 1. 日々の書き換え作業に必要な技術的支援は何か

究極の到達点は、すべてのニュースを、すべてのメディアで、すべての外国人にわかる日本語で提供することであるが、これは実現困難で、最適なバランスを見つける必要がある。

著者らは、特に、やさしさの基準を決める際に、日本語としての自然性の確保が大きな要件になると考えている。メディアで恒常的に提供される日本語は、教育や学習の教材として使われる可能性が高く、またそのような期待も高いと考えるからである。以上の要件のもと、上記の条件を検討するため、NHKのニュースを普通の日本語母語話者で、やさしい日本語に書き換える実験を行った。本稿ではこの実験から検討した各条件を報告する。

2. 書き換え実験概要

本節では人手による書き換え実験概要を報告する。以下、本稿で日本語能力試験の級について言及する場合は、1級から4級の4段階に分かれていた旧試験の級を指すc。

(1) 作業員

日本語母語話者2名に書き換えて依頼した。この2名に、外国人に日本語を職業として教えた経験はない。以後、この2名を作業員A、Bと呼ぶ。作業員Aは日本語の雑誌の編集などの経験があった。

(2) 書き換え対象記事

災害ニュースを対象とした書き換え実験を行った。目標は全分野のニュースだが、何の基準もないところから書き換えを行うのは困難である。そこで、先行研究のEJが地震のニュースやお知らせを対象につくられていることから、EJを暫定的な基準として災害ニュースを検討するのが適切と考えた。

b 105項目中7位である。なお1位は「火災・急急(119)や警察(110)に電話する」である。

c 2010年に改訂された。これによりN1からN5の5段階のレベルに分けられている。

表 1 書き換え対象のニュース記事

名称	新潟県中越地震	福井豪雨	台風	有珠山噴火	チリ地震の津波
記事数	106	131	115	108	86
期間	2004/10/23- 2004/11/06	2004/07/18- 2004/07/30	2004/08/01- 2004/11/30	2000/01/28- 2000/12/17	2010/02/27- 2010/03/03

そこで代表的な災害として、地震、大雨、台風、噴火、津波を選び、それぞれ100記事程度になるよう抽出した。

具体的にはこれらの災害を表すキーワード、例えば地震であれば「地震」「震度」、などを含む記事を抽出した。また、収集の期間は、各災害の発生から終了と思われる点を判断して決定した。ただし、台風については2004年夏の台風すべてを収集した。表1に記事数と収集期間を示す。

(3) 書き換え基準

書き換えに当たって次の方針を立てた。

- できるだけ原文の情報を保存する
 - 母語話者が見たときに自然と感ずること
 - 構文、語彙の書き換え基準はEJに準拠する
- 今回、EJの基準の中でおよそ以下の構文と語彙の条件7)を採用した。
- 構文条件
 1. 1文を短く、35文字程度とする
 2. 連体修飾句のある複文はできるだけ避け、単文とする
けさ阪神地域で起きた地震は大きな被害をもたらしました（下線部を独立した文にする）
 3. 否定を含む主題を避ける
「通れない橋は・・・」（「・・・は通れません」とする）
 4. 連用中止で文を続けたり（～し、～し）接続詞や接続表現を多用することを避ける（～ものの、～ほか、～うえ、～など）
 5. 文末表現を簡単にする
と呼びかけています（「してください」とする）
 6. 副詞の多用や二重否定の表現をできるだけ避ける
 - 語彙条件
- 最初はEJに従い、日本語能力試験出題基準の3級、4級レベルの語を使う方針をとつ

だが、予備的に地震のニュースを書き換えたところ、書き換え困難な語が続出した。例えば「東北線」などの固有名詞や「土砂災害」などの分野特有の語である。これらを無理に書き換えると解説的な連体修飾節が入って、構文的な難度が増す、自然性が損なわれる、などの問題が生ずる。そこで以後は、ある程度検討してやさしくできない語は、「書き換え困難語」として記録した上で、文中にそのまま残すこととした。

(4) 書き換え支援インターフェース

作業には2種類のインターフェースを提供した。

● 書き換え支援エディタ

作業者は、文中の1級、2級、級外(以後、これら3、4級以外の語を難語と呼ぶ)の語を原文から探しそれを3、4級(以後、平易語と呼ぶ)に書き換え、また、文を35文字程度にする必要がある。そこで、これらの作業を支援するため次のような機能を持つ書き換え支援エディタを作成した(図1)。

1. 記事を形態素解析し、1行単位で表示する。このとき各形態素の級を色別に表示する(原文エリア)
2. 原文中の形態素をダブルクリックすると、国語辞書10)の語釈が表示される(国語辞書検索エリア)
3. 語を入力すると、その日本語能力試験での級を表示する(日本語能力試験の級検索)
4. 入力エリアには、最初、原文が表示されており、作業者はこれを修正して書き換え作成する(書き換え入力エリア)
5. 書き換えた後の文の文字数を表示する(文字数表示)

このインターフェースで想定したのは次のような手順である。

6. 形態素の色の指定を頼りに難語を発見し、その語を国語辞書で検索する
7. 適切と思われる候補や表現があれば、その語の級を調査する
8. 以上の情報を参考に原文を修正して書き換えを行う
9. 書き換え後の文長を文字数表示で確認する

級の自動推定、検索には、出題基準に収録されている語彙リストと、入力単語(文)の形態素解析結果を照合するという簡易な方式をとった。この方法にはいくつかの問題がある。出題基準の語彙リストには機能語や機能表現が含まれていないため、これらを級外と認定してしまう。さらに、形態素と語彙リストの語の間不整合があるため、級外と認定される語が過剰に出る。いずれにせよ、過剰に級外が認定されることになる。これらの問題とその対処法は文献11)に詳述されており、著者らも現在、認定手法を改良中である。なお、本稿の形態素解析はMecab 0.95 とIPAdic-2.7.0の組み合わせを利用した。



図1 書き換え支援エディタ



図2 用例ブラウザ

表 2 書き換え例

原文	書き換え後
きのう 22 年ぶりに噴火した北海道南西部の有珠山付近で、今日午前 3 時 12 分ごろ強い地震があり、有珠山の北側の壮瞥町で震度 5 弱を観測しました。	きのう、22 年ぶりに北海道南西部にある有珠山が噴火しました。 有珠山の近くでは、きょう午前 3 時 12 分ごろ強い地震がありました。 有珠山の北側の壮瞥町では震度 5 弱でした。

● 用例ブラウザ

最初に与えた書き換え方針では判断に迷う場面に遭遇した。そこで、このようなときには相談の上、方針を決めて対処した。このため、作業の節目ごとに書き換えを見直すことが必要となり、これを支援する「用例ブラウザ」を提供した(図 2)。これは著者らが、NHK の国際放送のために行われている翻訳作業を支援するために開発した「翻訳用例ブラウザ」12)を改修したシステムである。元記事を対象にして、検索したい表現を入力すると、その表現、あるいは類似した表現13)を含む原記事と書き換え記事を表示する。また、書き換え記事を対象に表現を検索することもできる。これを使うと、ある表現の書き換え方針を変更するとき、この表現を含む記事すべてを検索して、変更の有効性を具体的に検討することができる。

3. 書き換え結果の観察

書き換え例を表 2 に示す。この例では 1 文が 3 文に書き換えられ、難語がやさしい表現に書き換えられている(網掛け)。また一部の難語は書き換え困難語として残されている。例えば、表の例では固有名詞(下線部)や難語(3, 4 級以外, イタリック)が残っている。以後、本節では作業によって、数量的な面で元記事がどのように変わったかを報告する。

(1) 形態素数変化

書き換えによってどの程度、語が制限されたかを示すため、書き換え前後における品詞毎の異なり形態素数の分布を表 3 に示す。表中の A, B は作業者を表す。これからわかるように、作業者による大きな差は見られない。これは、日々基準を確認しながら作業を進めた結果だと思われる。

異なり形態素総数は元々 6,094 個であったものが、両作業者とも 4,700 個強(77%)に減少した。また、一番減少数が大きかったのは名詞で、次は動詞であった。

表 3 中の頻度の多い順に、名詞から接頭詞までの形態素数の変化を比率で表したのが図 3 である。この図からは、名詞は 20%程度の減少にとどまったのに対して、動詞や副詞は 40%ないし 45%減少していることがわかる。

さらに、減少数の多い名詞を対象に細分類品詞について同様の調査した。

表 3 形態素数変化(全品詞)

品詞	元記事	A	B	品詞	元記事	A	B
名詞	4,788	3,888	3,919	接続詞	18	17	19
動詞	863	497	467	連体詞	17	17	18
副詞	149	83	87	助動詞	15	11	11
形容詞	94	82	80	感動詞	5	5	5
助詞	85	61	65	その他	1	0	2
接頭詞	40	29	28				
記号	19	21	21	合計	6,094	4,711	4,722

■ 作業者A ■ 作業者B

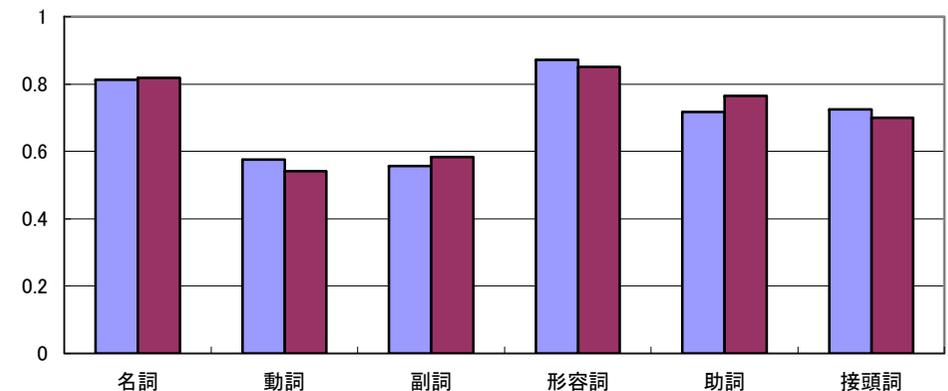


図 3 形態素変化率(高頻度品詞)

表 4 に頻度変化, 図 4 に変化率を示した。表 4 によると頻度の減少は一般名詞が顕著である。しかし、この減少率は 20%程度である。一方、サ変接続名詞の減少率は 60%程度、形容動詞語幹は 50%程度に達している。これらの品詞は記事中で用言として使われることも多い。先の結果と合わせると、体言より用言の方が語彙を絞りやすかったことを示唆している。

(2) 書き換え困難語

書き換え困難語として登録された語の総数は 490 であった。その分類を表 5 に示す。表の分類が「特殊概念」から「文化に関係した語」までは書き換えが困難な語である。

表 4 形態素数変化 (名詞細分類)

細分類品詞	元記事	作業 A	作業 B
一般	2,019	1,449	1,436
サ変接続	794	302	329
接尾辞	293	234	242
副詞可能名詞	149	93	98
形容動詞語幹	122	50	59
非自立	43	34	33
代名詞	22	17	21
ナイ形容動詞語幹	5	2	3

■ 作業 A ■ 作業 B

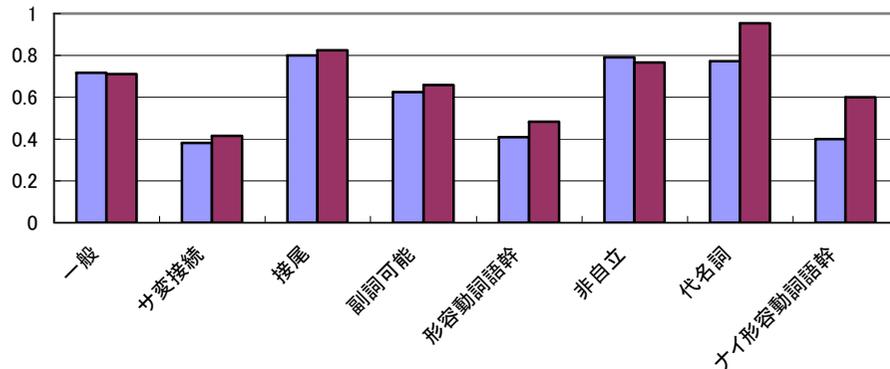


図 4 形態素変化率 (名詞細分類)

「頻出語」と「慣用表現」は書き換え可能であるが「コメント」に記した理由から書き換えていないものである。この表から、ほとんどの書き換え困難語が名詞であったことがわかる。名詞は数の上では一番減ったが、減少率はそれほど高くないことと合わせて、名詞をやさしくすることは難しいといえる。

(3) 級の変化

書き換えにより、どの程度語彙が簡単になったかを示すため、書き換え前後の形態素の級の分布を計算した。先に述べたように、全品詞にわたる正しい級の判定はかなり難しい。そこで比較的誤りの少ないと思われるサ変接続名詞の結果を図 5 に示す。このグラフからわかるように、1, 2 級、級外の難語が減少していることがわかる。

表 5 書き換え困難語概要

分類	特徴	例	コメント
特殊概念	特殊な意味を持っており対応する平易語が見つからない	接待, 吹き抜け, 感染, 不審者	上位概念にすると意味が異なってしまう。
抽象的概念 1	概念が広すぎて同等の平易語が見つからない	福祉, 公共事業, 国際社会, 環境問題, 政治活動	言い換えると説明的, あるいは例の羅列になる
抽象的概念 2	文脈によって平易語が異なる	影響, 対処	「地震の影響」→「地震で建物が壊れた」 「金融危機の影響」→「景気が悪い」といった言い換えが必要
分野固有用語		補正予算案, マグマ, 水蒸気爆発, 震度, 被災地, 被害, 秘書官, 自治体	固有表現に近い職業名や分野に特有の用語
文化に関係した語		ひな人形, お内裏さま, 歌舞伎, 唐草, 位牌, ひわだぶき	
頻出語	頻度が高いので書き換えない方が適切	記者会見, お年寄り, 住民	「お年寄り」→「おじいさん, おばあさん」とすると冗長
慣用表現	共起関係にある語	布団を <u>しく</u> 布団を <u>干す</u>	「しく, 干す」を別な語にすると印象が変わる

他の品詞も調査したところ、同様の傾向が見られ、全体としての語の級分布はやさしい方向へ変化していた。なお、次節で述べる日本語教師の印象では、固有名詞や一部の専門用語を除くと、級外の語は理解に問題を生ずるほどはないとのことである。

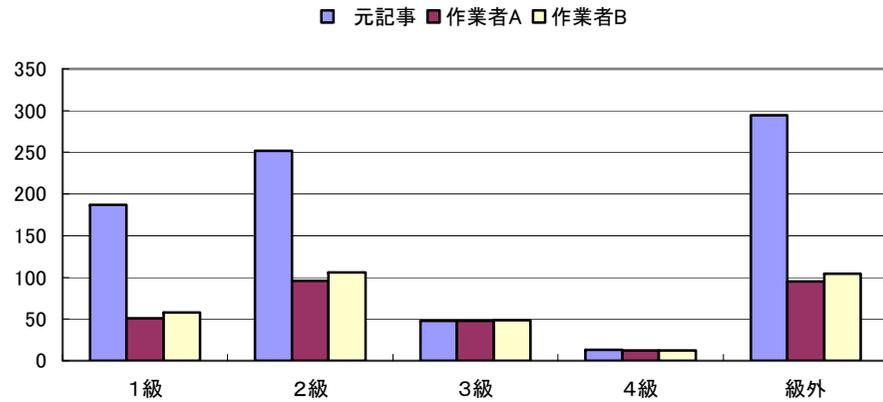


図 5 サ変接続名詞の級分布変化

(4) 平均文長変化

災害ジャンル全体の元記事文の平均長は 74.4 文字だった。書き換え後の平均長は作業者 A が 32.8 文字 B が 34.4 文字であった。この数字から、文長は書き換え基準に収まったことを示している。構文の複雑さはかなり軽減されたと考えられる。

(5) 総文字数の変化

書き換えを行うと、説明的な表現を使う、複合語を開くなどするため、総文字数は一般に増加する。今回の元の災害記事全体の文字数に対する作業者 A の割合は 1.04、B の割合は 1.06 で、多少増加した程度であった。

4. 日本語教師による観察

今回の作業は、普通の母語話者が、既存の文献に基づいた基準でニュースをやさしくしたものである。この書き換えはどの程度妥当だろうか。また、外国人の理解度はどの程度だろうか。さらに、これらの書き換え結果を修正して、やさしい日本語の基準につなげたい。このような意図のもと、日本語教師による今回の書き換え結果の検討、および修正を開始した。日本語教師は日々外国人に日本語を教授しており、経験上、彼らの日本語レベルをよく知っていることから、理解度のおよその評価ができ、残っている難しい部分を修正できると考えたからである。

この中で、これまで得られたコメントは以下の通りである。

- 想定される理解度

今回、文法レベルは、ほぼ日本語能力試験 3 級以下に収まっている。

表 6 書き換えの修正例

原文	梅雨前線の影響で、福井県内ではきょう未明から激しい雨が降り、美山町と福井市、それに鯖江市の合わせて二千六百世帯を超える住民に避難勧告が出ています。 気象台によりますと、午前十一時までの一時間の雨量は、福井県▽今庄町で十八ミリ▽大野市で九ミリなどで雨は小康状態になっています。
作業者 A	梅雨前線により、福井県内ではきょう午前 0 時～午前 3 時ごろから強い雨が降りました。 美山町、福井市、鯖江市では、全部で 2,600 世帯を超える市民に避難勧告が出ています。 気象台からの情報です。午前 11 時までの一時間の雨量は、福井県今庄町で 18mm、大野市で 9mm です。弱い雨が降っています。
修正結果	福井県では今日、午前 0 時すぎから、とても強い雨が降りました。これは梅雨前線のためで、美山町、福井市、鯖江市では全部で 2600 世帯以上の住民に避難勧告が出ています。 気象台からの情報です。午前 11 時までの 1 時間の雨の量は、福井県の今庄町で 18 mm、大野市で 9 mm で、雨は弱くなっています。

一方、語彙は 2 級レベル以上のものが残った状態である。全体的には、知らない語があったとしても、構文が単純なため、大意は想像できるレベルと思われる。文を見た印象では、3 級合格から 2 級受験準備レベルの間の学習者であればほぼ理解可能と思われる。実際、予備的ではあるが、このレベルの学習者に、日本語教師が修正した書き換えサンプルをルビ付きで見せて印象を尋ねたところ、文法的にわからないところはなく、主観的な理解度は 80% 程度との返答が得られた。また意味がはっきりわからない単語を尋ねたところ「震源地、伊豆諸島、噴火、被災地、有珠山、避難勧告、梅雨前線、がけ崩れ」などの答えが返ってきた。これらは固有名詞、分野固有の語であり、日常、学習する機会がほとんどないものである。

- 書き換えの質

外国人への日本語教育経験のない母語話者が作成した文ではあるが、ほぼ的確に難しい部分をやさしくしている。ただし、文長の制限を厳しくしすぎたことから、文の分割が過度に行われており、また接続表現をあまり使っていないことから、文のつながりなどの自然性に問題が見られることがある。また、語彙をやさしくしすぎたことによる不自然さが一部残っている。このような問題を修正すれば、自然でやさしいニュースになるとと思われる。現在進めている修正の例を表 6 に示す。網掛けと下線部が修正のポイントである。(市民→住民)のように、やさしくしすぎた部分を戻した部分も見られる。

5. 考察と今後の課題

今回の知見を簡単にまとめると以下ようになる。

1. 普通の母語話者の作業であるが、一定水準の書き換えが得られた
2. 構文的には3級以下のやさしい文法におさまっている
3. 分野固有の用語、固有名詞などを中心にかなりの難語が残っている

これらを元にするると1節であげた、決めるべき条件は以下になると考える。

● メディア

やさしくする上で、最大の問題は語彙、特に名詞である。今回の書き換え結果には改善の余地があるため、今後も修正を続ける。しかし内容をできるだけ減らさず、ニュースをやさしくする場合、難語がかなり残ると予想される。

この問題には放送の受け手に、辞書を提供することが有効である。これは、インターネットやデジタル放送での文字によるサービスであれば可能である。読み手は自分のペースでニュースを読み、わからない語を提供された辞書で確認することができる。辞書を提供するという考えはHKでも提案されている8)。また、アメリカの国営放送VOA(Voice of America)のSpecial Englishのホームページでは1,500語に制限した英語でさまざまな情報が提供されており、さらに表示されている単語をクリックすると辞書内容が表示される。これは著者らのサービスイメージに近いと考えている。テレビ、ラジオなどの音声中心の情報提供手法は今後の課題と考える。

● やさしい日本語の基準

語彙

3級以下の初級語彙での記述を優先的に考える。しかし、この範囲を超える語は残る。これには、辞書を提供することで受け手を支援する。さらに、ニュースを記述するための基本語彙を決めて、その範囲でやさしくする。基本語彙を決める方針はHKでも提案されており8)著者らもこれは有効だと考える。辞書を提供したとしても、難語だらけの文を読む気にはならないだろう。どの程度の規模の辞書になるかは不明だが、2000年から2009年の全ニュース原稿を形態素解析した結果、全形態素の90%をカバーするには約2,700形態素、95%をカバーするには約6,000形態素必要であったことから、数千語の規模と予想している。

文法

今回、ほぼ3級以下の初級文法の範囲でやさしく書き換えられる見込みを得た。ただし、ニュースには独特の言い回しがある。例えば、ニュースの基本は伝聞であることから、伝聞表現、確度を表す推量表現が豊富である。今回の調査の中だけでも「見られます、見込みです、見通しです、することにしています、おそれがあります、推定されています…」などの豊富な表現があった。これらの多くは2級レベル以上の文法項目であり、すべてを使ったのではやさしくならない。できるだけ制限して使用した

い。このように、ニュースらしさを最低限保持するために初級文法を一部拡張することになると考えている。

以上の基準によって、初級終了から2級準備程度の外国人に理解可能になると期待している。

● 書き換えの支援

今回は普通の母語話者が、大まかな基準をもとに初めて作業したことから、書き換えに長時間を要した。1日5記事程度の場合もあった。この経験を通じて、やさしい日本語への書き換えでは、機械支援が必須かつ有効だと考える。ニュース用のやさしい日本語の基準は新規に作成する。これを明文化して、作業者に学習してもらうことは前提としても、細かな語彙や文法項目を完全に記憶するのは難しいだろう。さらに、この規則がすべてを網羅できるとは限らない。そこで以下のような書き換え支援機能が有効と考えている。

1. 難しい部分の指摘
2. 言い換えの候補提案
3. 過去用例の提示
4. 書き換え結果の難易度判定

今回、不完全ながら難語を指摘する1の機能、国語辞書の検索による2の機能、翻訳メモリによる3の機能、文字数表示による4の機能を作業者に提供した。普通の母語話者が一定水準で書き換えられたのは、これらの機能によるところが大きい。特に1の機能がなければ書き換えのきっかけがつかめず作業にならなかったと思われる。3の機能は、書き換えの統一、過去事例の検索に有用であった。2の機能はヒントにはなったようであるが、さらに積極的に代替候補を提案するような機能が必要である14)。4の機能については文献11, 15, 16, 17)などの文の難易度判定法などを参考に著者らの目的にあった機能を開発したい。

6. おわりに

全分野のニュースをやさしく書き換えて外国人に放送で提供するための検討結果を報告した。具体的には、災害ニュースと、これを普通の母語話者で書き換えたニュースの比較、日本語教師の観察によるコメントを通じて得た知見から、やさしい日本語の基準、サービスメディア、書き換えの支援について述べた。

すでに、全ジャンルのニュースを普通の母語話者で書き換えたデータも作成しており、これについても日本語教師による見直しを始める予定である。この中で、今回得た結果の妥当性をさらに検討したい。さらに書き換え結果に対する外国人の理解度を評価する実験も行いたいと考えている。

参考文献

- 1) 法務省入国管理局ホームページ
http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri04_00005.html
- 2) 金田智子：「生活のための日本語」に関する基盤的研究－段階的発達の支援をめざして－中間報告書，平成20年度～23年度科学研究費補助金 基盤研究B，研究成果報告書 中間報告，2010
- 3) 蔡垂功：外国人への災害情報提供をめぐる事例と取り組み，日本災害情報学会第7回研究発表大会予稿集，pp.157-162，2005
- 4) ロドリグ・マイヤール，横山茂：在住外国人に災害情報はどうか伝わったか，放送研究と調査，pp.26-34，September，2005
- 5) 佐藤和之：災害時の言語表現を考える，日本語学，Vol.23，No.8，pp.34-45，2004
- 6) 独)国際交流基金，財)日本国際教育支援協会：日本語能力試験出題基準 改訂版，凡人社，2006
- 7) 松田陽子：外国人のための災害時の日本語，月刊言語，Vol.28，No. 8，pp42-51，1999
- 8) 庵，岩田，森：「やさしい日本語」を用いた公文書の書き換え，2009年度日本語教育学会秋季大会予稿集，pp.135-140，2009
- 9) 庵功雄：地域日本語教育と日本語教育文法－「やさしい日本語」という観点から，人文・自然研究3，pp.126-141，一橋大学 大学教育研究開発センター，2009
- 10) 田近洵一編：例解小学国語辞典 第四版，三省堂，2009
- 11) 佐藤，土屋，村山，麻岡，王：日本語文の規格化，情報処理学会自然言語処理研究会資料，No. 2003-NL-153，pp.133-140，2003
- 12) 熊野，後藤，田中，浦谷，江原：翻訳用例提示システムの設計・開発・運用，電子情報通信学会論文誌D-II，J84-D-II，No.6，pp. 1175-1184，2000
- 13) 田中，熊野，浦谷，江原：放送ニュースを対象とした効果的類似用例検索法，自然言語処理，Vol. 6，No. 5，pp. 93-116，1999
- 14) 美野，田中：国語辞典を使った放送ニュースの名詞の平易化，言語処理学会第16回年次大会発表論文集，pp760-763，2010
- 15) 柴崎，李：日本語能力試験読解問題を土台にした文章の難易尺度の構築－日本語教育リーダービリティの基礎研究－，2010年度日本語教育学会春季大会予稿集，pp.211-215，2010
- 16) 川村よし子：チュウ太の虎の巻，くろしお出版，2009
- 17) S. Sato, S. Matsuyoshi and Y. Kondoh: Automatic Assessment of Japanese Text Readability Based on a Textbook Corpus, Proc. of the 6th International Conference on Language Resources and Evaluation, (LREC 2008), pp.654-660, 2008